

日本剣道形 太刀の形解説

項目	動作の解説
立会前の作法	<ol style="list-style-type: none"> 立会の前には、木刀を右手に提げ、下座で約三步の距離で向かい合って正座し、木刀を右脇に刃部を内側に、鐔を膝頭の線にそろえて置き、互いに礼をする。 右足から立ち上がり、刀を右手に刃部を上を柄を前に切先を後ろさかりにして提げ、立会の間合に進む。立会の間合は、およそ九歩とする。 立会の間合に進んだのち、まず上座に向かって礼をし、次に、互いの礼をしてから、左手に持ちかえると同時に、親指を鐔にかけて腰にとる。 次に、互いに右足から大きく三步踏み出して、蹲踞しながら刀を抜き合わせる。蹲踞は、やや右足を前にして右自然体となる程度とし、立ち上がって中段の構えとなり、剣先を下げ、互いに左足から小さく五歩ひき、いったん中段の構えになり、次の形の構えになる。
一本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀は諸手左上段、仕太刀は諸手右上段で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出し、仕太刀の正面を打つ。 仕太刀は左足から体を少し後ろに自然体で引くと同時に、諸手も後ろにひいて、打太刀の剣先を抜き、右足を踏み出し、打太刀の正面を打つ。 打太刀が剣先を下段のまま送り足で一歩ひくので、仕太刀は、十分な気位で打太刀を押ししながら、剣先を顔の中心につけ、打太刀がさらに一歩ひくと同時に、左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり残心を示す。 打太刀が剣先を下段から中段につけ始めるので、仕太刀も同時に左足をひいて諸手左上段を下ろし、相中段となり、剣先を下げて元の位置にかえる。
二本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀、仕太刀相中段で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て仕太刀の右小手を打つ。 仕太刀は、左足から右足をともなって左斜め後ろにひくと同時に、剣先を下げて、打太刀の刀の下で半円をえがく心持ちで打太刀の打ち込んでくるのを抜いて、大きく右足を踏み出すと同時に打太刀の右小手を打つ。 打太刀は左足から、仕太刀は右足から十分な気位で残心を示しながら、相中段になりつつ、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて、元の位置にかえる。
三本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀、仕太刀相下段で互いに右足から進み、間合に接したとき、互いに気争いで自然に相中段になる。そこで打太刀は機を見て、刃先を少し仕太刀の左に向け、右足から一歩踏み込みながら、鎧ですり込み、諸手で仕太刀の水月を突く。仕太刀は、左足から一歩大きく体をひきながら、打太刀の刀身を物打の鎧で軽く入れ突きに萎やすと同時に打太刀の胸部へ突き返す。 打太刀はこのとき右足を後ろにひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の咽喉部につけて仕太刀の刀を物打の鎧で右に押さえる。 仕太刀は、さらに突きの氣勢で左足を踏み出し、位詰めに進むので、打太刀は左足をひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下からまわして返し右自然体の構えになり、物打の鎧で押さえるが仕太刀の気位に押されて剣先を下げながら左足から後ろにひく。仕太刀は、すかさず右足から二、三步小足にやや早く位詰に進み、剣先は胸部から次第に上げて行って顔の中心につける。 その後、打太刀は右足から、仕太刀は左足から相中段になりながら刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。
四本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀は八相の構え、仕太刀は脇構えで、互いに左足から進み間合に接したとき、打太刀は機を見て八相の構えから、諸手左上段に、仕太刀もすかさず脇構えから、諸手左上段に変化して、互いに右足を踏み出すと同時に、十分な氣勢で相手の正面に打ち込み、切結んで相打となる。 相打となってからは、双方同じ気位で互いの刀身が鎧を削るようにして、自然に相中段となり、打太刀は機を見て刃先を少し仕太刀の左に向け、右足を(左足もともなって)進めると同時に、諸手で仕太刀の右肘を突く。 仕太刀は、左足を左前に、右足をその後ろに移すと同時に大きく巻き返して打太刀の正面を打つ。 打太刀は左足から、仕太刀は右足から、十分に残心の気位を示しながら相中段になりつつ、抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。
五本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀は諸手左上段、仕太刀は中段で、打太刀は左足から仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出すと同時に諸手左上段から、仕太刀の正面を打つ。 仕太刀は、左足からひくと同時に左鎧で打太刀の刀をすり上げ、右足を踏み出して正面を打ち、右足を引きながら諸手左上段に振りかぶって残心を示す。 打太刀が剣先を中段につけ始めるので、同時に仕太刀も左足をひいて剣先を中段に下ろし、相中段になる。打太刀は左足から、仕太刀は右足から小足三步で、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。
六本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀は中段、仕太刀は下段で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て下段から打太刀の両拳の中心を攻める氣勢で、中段に上げ始めるので、同時に打太刀も、これに応ずる心持ちでやや剣先を下げて、仕太刀の刀と合おうとする瞬間、右足をひいて諸手左上段に振りかぶる。 仕太刀はすかさず中段のまま大きく右足から(左足もともなって)一歩進む。打太刀は、直ちに左足をひいて中段となり、機を見て仕太刀の右小手を打つ。 仕太刀はその刀を、左足をひらくと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右鎧ですり上げ、右足を踏み出し、打太刀の右小手を打つ。 打太刀は剣先を下げて、左足から左斜め後ろに大きくひくので、仕太刀は左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり残心を示す。 打太刀、仕太刀ともに右足から相中段になりながら、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先をさげて元の位置にかえる。
七本目	<ol style="list-style-type: none"> 打太刀、仕太刀相中段で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て、一歩軽く踏み込み、刃先をやや左斜め下に向けて、鎧ですり込みながら、諸手で仕太刀の胸部を突く。仕太刀は、打太刀の進む程度に応じて、左足から体をひくと同時に、諸手を伸ばし、刃先を左斜め下に向け、物打の鎧で打太刀の刀を支える。 互いに相中段になり、打太刀は、左足を踏み出し、右足を踏み出すと同時に、体を捨てて諸手で仕太刀の正面に打ち込む。 仕太刀は、右足を右前にひらき、左足を踏み出して体をすれ違いながら諸手で、打太刀の右腕を打ち、右足を踏み出し左足の右斜め前に軽く右膝をつけて、爪先を立て左膝を立てる。諸手は十分に伸ばし、刀は手とほぼ平行に右斜め前にとり、刃先は右に向ける。その後、刀を返して脇構えに構えて、残心を示す。 打太刀は、上体を起こして、刀を大きく振りかぶりながら、右足を軸にして、左足を後ろにひいて、仕太刀に向き合って、剣先を中段につけ始めるので、同時に仕太刀も、その体勢から刀を大きく振りかぶりながら、右膝を軸にして左に向きをかえて、打太刀に向き合い、剣先を中段の程度につける。 つづいて仕太刀が十分な氣勢で立ち上がってくるので、打太刀は左足から後ろにひきながら、相中段になり、さらに互いに縁が切れないうちで打太刀、仕太刀ともに左足から、刀を抜き合わせた位置にもどる。
立会い後の作法	<ol style="list-style-type: none"> 七本目でいったん太刀の形が終わるので蹲踞して互いに刀を納めて立ち合いの間合にかえり、立礼をして終わる。